



2021(仏暦2564)年 10月号 (第121号)

万行寺報

Mangyoji Jihō

発行
浄土真宗本願寺派 万行寺
住職 山崎信充
〒385-0003
長野県佐久市下平尾4 6 1 - 1
電話 0267-67-2460



■住職法話

避けて通れない「老・病・死」

■浄土真宗 (新) 仏事のイロハ

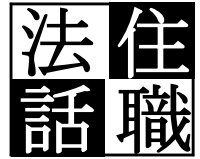
■本願寺の本

心に響くことば(2022年版)

■編集後記

年忌法要表

1 周忌	2020(令和 2)年	23 回忌	1999(平成11)年
3 回忌	2019(令和 1)年	25 回忌	1997(平成 9)年
7 回忌	2015(平成27)年	27 回忌	1995(平成 7)年
13 回忌	2009(平成21)年	33 回忌	1989(平成 1)年
17 回忌	2005(平成17)年	50 回忌	1972(昭和47)年



避けて通れない「老・病・死」

今月の法語

老いが病が死が
私の生を

問いかけている

老いること、病になること、死ぬことは誰しも避けて通れないことです。

お釈迦さまは、人間の老病死の姿を見て出家されたと伝えられています。『大無量寿経』というお経で次のように説かれます。

見老病死 悟世非常
(老・病・死を見て世の非常を悟る)

老いること、病になること、死ぬことという人間には避けて通ることのできない事実を見て、ごまかすことなく受けとめることこそ、この世の非常を悟ることであると教えられます。そういった我が身に起こる事実を受けとめることこそ、私の生の意味を問いかけていると言われるのが今月の法語です。

しかし、私たちは、これら老・病・死の事実をなるべく遠ざけて見ないようにしたり、先延ばしにしたいと思ってしまうのが常です。

それは、葬儀などで常に死の現実を間近に見てきた私にも言えることでした。まだ若

く、老病死の悩みすら他人事としか見れなかった時代を顧みることがあります。病の苦しみという大病の経験はありませんが、加齢に伴い老いの悩みが増えるようになってきました。

そのような中で、死の事実を私の事として感じられる出来事がありました。それは、忘れもしない一昨年の娘の小

学校の運動会が終わり、後片付けをしていた時でした。義母の携帯がなり、妻の妹からの電話でした。義母の「えっ！」という驚きの言葉と

もに妹の夫(義弟)が亡くなったとの知らせでした。私と同年ということもあり、娘の

誕生を期に更に親しく会うことが増えてきたの時の計報でした。子が授からなく、姪っ子の娘の存在は支えになつていたようでした。長年の不摂生が原因で、登山中の突然死でした。皆が呆気にとられる中、慌ただしく葬儀を執り行いました。あれから早いもので、先日、三回忌をお寺でお勤めしました。

義弟の死もそうですが、仏事の節目毎に、もしかしたら明日にでも、という自身の死を見つめながら、今生かされて生きている「生」という意味を問わせていただくことが多くなってきました。

南無阿弥陀仏



浄土真宗

④ 仏事のイロハ

二、葬儀を行う

― 悲しみを超えて―

「院号の意味」

院号をつけると「位」が上がる?

法名をいただいでいない「門徒」が亡くなると、導師を務めるお寺の住職が本願寺住職（門主）に代わって「おかみそり」（帰敬式）を行い、法名を授けることになりませんが、その際、遺族の方の要望で「院号」を法名の上につけることがあります。

この院号、実は誤解している人が随分と多いようです。たとえば「故人の社会的地位に見合うように」とか「字数

が多いほど、あの世での位が高いだろう」といった感覚で院号を求めたり、お金で院号を買つかのように「院号料は高い!」とおっしゃる方もあります。

もともとお寺側も「院号をつけますか?」と、つい喪主に尋ねたりしますので、それが誤解に拍車をかけているのかもしれない。

浄土真宗の教えは、社会的地位や修行の度合いによって死後の「位」が定まるので



はなく、信心一つで皆等しく浄土に生まれることができるという教えです。その教えに帰依した人に授けられるのが法名です。

ですから、法名以外に「院号」や「位」の字をつけることはありませんし、「居士」や「大姉」といった言葉も使いません。字数の多少や院号の有無によって位が決められるのではなく、皆等しく浄土という最上のさとりの世界に生まれさせていただくのです。

それでは、院号とは何かと言いますと、仏法を弘め、宗門護持に尽くした人を讃える意味でおくられるものなのです。具体的には、通常の場合、宗門の護持発展に役立てる意味の懇志を一定額以上本山に納めた方に対し、お扱いの

一つとして交付されます。

ただ、多くは遺族が故人を追慕する形で懇志を納めますので、遺族の方も教えを喜び宗門発展を願う気持ちが大切です。けっしてお金で買うものではありません。

なお、懇志の金額や、その他わからないことがあればお寺にお尋ねください。

ポイント

- ▼院号は仏法に貢献した人を讃えておくられるもの
- ▼法名以外に「位」をあらわすような言葉はつけない

「浄土真宗 ④ 仏事のイロハ」末本弘然著／本願寺出版社刊より



～本願寺の本～

「心に響くことば(2022年版)」

著者 山本掬敷

本願寺出版社 刊 132円(税込)

浄土真宗のみ教えを味わうことのできる法語を掲げた『法語カレンダー(2022年版)』。その法語それぞれにやさしい法話を付した施本向きの小冊子。短編法話13編で構成されており、法語カレンダーをより深くあじわえる一冊。

[本願寺出版社ホームページより]



毎号の寺報「住職法話」に法語を載せています。来年版のカレンダーは、門信徒会会員に発送しました。

親鸞聖人御誕生850年 慶讃法要

立教開宗800年

Joint Celebration

850th Anniversary of Shinran Shonin's Birth & 800th Anniversary of the Establishment of the Jodo Shinshu Teaching

法要期日

2023(令和5)年

第1期 3月29日(水)～4月3日(月)
第2期 4月10日(月)～4月15日(土)

第3期 4月24日(月)～4月29日(土)
第4期 5月6日(土)～5月11日(木)
第5期 5月16日(火)～5月21日(日)

毎月16日はShinran's Day

親鸞聖人のご命日です ご参拝ください

浄土真宗本願寺派
龍谷山 本願寺

編集後記

国内では、コロナ感染も少し落ち着いてきているようです。しかし、海外では、また感染が再発している国があるようで、安心していかれません。引き続き感染対策をされることを願います。◆「本願寺の本」にもお伝えしたように、門信徒会会員には来年版の法語カレンダーを、今月号と共に送りしました。引き続き法語をお題にして「住職法話」を進めていこうと思っています。◆毎月、寺報作成に悩むことばかりです。ご意見、ご感想などございましたら、メール等でお気軽にお寄せ下さい。

